

# 令和3年度 園自己評価・学校関係者評価報告書

令和4年3月31日

学校法人 吉祥学園  
認定こども園 水沢こども園

## 1. 本園の理念、教育・保育目標、教育・保育方針

○理念 たくさんの経験、活動を通し、他を思いやる気持ちを育て、又、ひとりひとりがより良く強く生きる力、意志を持つように育てる

○教育・保育目標 ・じょうぶな子・・・健康で明るく元気なたくましい子を育てます  
・がんばる子・・・遊びに意欲をもって取り組み、試したり工夫したりしながら、最後までやり通す力を育てます  
・やさしい子・・・友達との遊びの中で様々な体験をし、思いやりと豊かな感性を持つ子を育てます

### ○教育・保育方針

- 1 発達段階に応じた環境を整え、興味や関心を広げ、心情、意欲、態度等生きる力の根底となるものを育て、就学に接続し小1プロブレム等が生じないようにしていきます
- 2 家庭と連携し、保護者の家庭での養育力の向上を支援します
- 3 専門性を生かして、教育と保育の一体的なあり方を実現します
- 4 地域の人と共に子育て支援を実施します

## 2. 本年度の重点的な目標・計画

3歳以上児：保護者の気持ちに寄り添った支援の在り方を考える

3歳未満児：安心・安全な保育を目指して

～職員一人一人の意識を高め、安全で衛生的な環境を構成する～

## 3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	教育・保育計画に照らし合わせ、幼児が安全に健やかに成長する為の保育を行っているか、常に振り返り次への手立てを実践していく	A	幼児ひとりひとりの全体的な姿や遊びを通した活動、見通しを持った保育実践を行なった。
2	3歳以上児 ・保護者の気持ちに寄り添った支援のあり方を考えながら保育の質の更なる向上を目指す。 ・昨年度実践した中にはなかなかうまくいかない事例もあったので、今年度はいろいろな角度からそれぞれが専門性を身につけて分析する力をつけ、ポイントをおさえて伝える技術を獲得し、良き方向へと向けながら質の向上を目指す。	A	3歳以上児 ・テーマについての共通理解と研究の進め方についてを検討 →・研究の視点（専門的知識・分析・伝える技術）を明確にし研究を進める。 ・保護者、支援児の対応に関する保育教諭の悩みの分析 →・悩みを共有する。 ・分析した内容に関わるVTRを視聴し感想を出し合う。 →・「気になる子への保護者支援」 ・テキストを使用し検討。感想、意見を出し合う。 →・「安全対策における保護者支援」 ・共有したことを基に、1つの事例に対して皆で意見を出し合う。 ・まとめ →・成果と今後の課題について

<p>3歳未満児</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新年度スタートに伴いまずは基本的た ちかえり、安心安全な保育環境を構成し ていくことを念頭に置きながら保育を 展開していく。</li> <li>うまくいかない事もあるが、その都度職 員同士が声を掛け合い対応し改善して いく。</li> </ul>	A	<p>3歳未満児</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新入園児への共通理解</li> <li>・嘔吐処理の仕方について</li> <li>・アレルギーのある子どもへの対応</li> <li>・水遊びの際の事故防止と安全な環境づくりについて</li> <li>・子どもへの理解を深め保護者の援助や環境構成の在り 方について考える→・事例を出し合い検討</li> <li>・登園時、保育中の健康チェックについて</li> <li>・雪遊びの際の安全対策について</li> <li>・まとめ→・成果と今後の課題について</li> </ul>
--	---	---

評価 (A・・・十分に成果があった B・・・成果があった C・・・少し成果があった D・・・成果がなかった)

#### 4. 総合的な評価結果

評価	理由
A	<p>3歳以上児：昨年度より踏み込み問題点を分析していった事により、より解決していく方向が明確になっ ていった。その事で問題を自分の事として考える事ができるようになり、質の向上にもつながっていった。 3歳未満児：新任の職員、保育経験の浅い職員と共に原点に戻り、安心・安全に対する意識を高める事が できた。また、これまでの経験を基に具体的な場面での安心・安全な環境の構成を考えていく事ができた。</p>

評価 (A・・・十分に成果があった B・・・成果があった C・・・少し成果があった D・・・成果がなかった)

#### 5. 今後取り組むべき課題

- ・社会状況の変化に伴い、保護者を取り巻く環境がより複雑になってきている事から、今後も必要  
な方に必要な支援をしていけるよう研修・研鑽を重ねていく。
- ・ヒヤリハット事例は様々である。その都度職員間で声を掛け合い対応していく事、また、危険を  
想定していく力を身に付けていく事が更に必要である。

#### 6. 学校関係者評価委員会の評価

- ① 園自己評価の結果の内容、それを踏まえた今後の改善方策、重点的に取り組むことが必要な目標  
や計画、評価項目等、そして学校運営の改善に向けた取組、すえて適切であると評価します。
- ② 適切に評価されていると思います。感染症の影響で極力、人との接触を控えなければならない環  
境の中、できる努力をしているのだろうと推察されました。
- ③ 園自己評価に対して妥当な評価と思います。
- ④ 適切に評価されていると思います。